



LANDMARK

02

るもいコホートピア

るもい健康の駅 留萌市花園町3丁目1番1号

基盤となった研究テーマ

認知症モデル動物によるバイオマーカー探索と
予防作用機能性素材開発

札幌医科大学医学部 教授 小海 康夫 Yasuo KOKAI.M.D.

医療と介護のあり方は
高齢社会を支える重要な社会資源。
住民の健康づくりと
医療研究がリンクしたフィールドで
最新研究が進んでいます。

世界に例のない高齢社会を 持続可能なものに

世界一の長寿国であり、少子化とともに高齢化が各地で進行する日本。高齢社会を持続可能なものにするノウハウを得ることを目指し、開かれた研究フィールドを提供する拠点づくりとしてスタートしたのが「るもいコホートピア構想」です。現在、人口2万5千人の留萌市の市民の協力を得て、留萌市立病院、北海道、そして道内の3医系大学の研究者が協力して高齢社会の問題解決を目指しながら、同時に協力する市民が健康づくりの恩恵を受ける地域づくりのモデルとして、生活習慣や健診結果の長期的モニターなど、医療情報に裏付けられた臨床検体の研究が実現しています。

さらなる研究体制の 整備に向けて

生活習慣病を研究ターゲットのひとつにすることで、日常の習慣や検査値を長期的に追跡調査でき、Bio-Sで進める認知症バイオマーカーの探索などにも大きな効果をもたらします。また、運営拠点となっている「るもい健康の駅」では、健康相談やセミナーなど、市民の生活習慣や食生活を改善する取り組みが積極的に行われているほか、ヒト介入試験についての倫理委員会が発足するなど体制整備も進んでいます。さらに今年度からは、眼底画像を解析しインターネットによって遠隔健康アドバイスを行う「網膜ゲノムコホート」もスタートし、眼底情報と生活習慣病情報およびゲノム情報の統合を可能にする研究体制の整備も進行しています。

左 るもいコホートピアの拠点「健康の駅」は地域住民の健康づくりの拠点になっている
右 新しい予防医学のフィールドとして高まる期待

